



古軍がここに陣をしき、赤坂、鳥飼とともに合戦場となったところ。360度の眺望がきく山頂北側に「元寇古戦場跡」の碑が建つ①。

7.博多 地下鉄「祇園」

1976年の地下鉄工事を契機に、現在まで数多くの発掘調査が行われ、博多が古代からの国際貿易の拠点であったことを考古学上からも明らかにした。大博通りに調査の結果などをレプリカで示す(歴史の散歩道)。また博多小学校から元寇防塁と考えられる石塁を発見。見学施設が作られる予定である。博多には、1195年栄西が開基した日本最初の禅寺**聖福寺**、聖一国師(円爾弁円)が開山し、1242年宋出身の貿易商謝国明が創建した**承天寺**、亀山上皇が蒙古襲来の際敵国降伏祈禱を行わせた**勅願石**や地蔵菩薩の**板碑**が残る**大乗寺(跡)**、博多の総鎮守で近くに鎮西探題があったとされる**櫛田神社**など多くの神社仏閣がある。

8.東公園 地下鉄「馬出九大病院」

文永の役古戦場跡。園内には**亀山上皇銅像**(像高4.84m)。原型は博多出身の山崎朝雲の製作。1904年に完成。台座には有栖川宮熾仁親王による「敵国降伏」の銘板がある)、**日蓮上人銅像**(像高10.55m)の青銅像。東京美術学校を中心に製作し1904年11月除幕)が建ち、また**元寇史料館**では蒙古襲来に関する元寇絵などを展示する。

9.箱崎 地下鉄「箱崎宮前」「貝塚」

元寇防塁は北端近くの**地蔵松原公園**に残る。**筥崎宮**は12世紀から対外交渉の基地として栄えた。文永の役では戦場となり焼失したが、すぐに再建された②。

10.志賀島 西鉄バス「志賀島」、市営渡船「志賀渡船場」

博多湾に浮かぶ周囲約10kmの島。二度にわたる蒙古襲来で戦場となった。島の西海岸にある蒙古塚には文永・弘安の役で戦死した蒙古兵士のため1927年「**蒙古軍供養塔**」が建てられた③。**志賀海神社**は古くから海上交通の安全を守る神として信仰されている。この神社の北の山中にある**火焔塚**は弘安の役の時、高野山の僧侶一行がこもり、蒙古軍の降伏を祈禱したといわれるところ。

蒙古襲来関係年表

鎌倉幕府	モンゴル帝国・元
1192 源頼朝、鎌倉幕府をひらく	1206 チンギス・ハン、モンゴル帝国をおこす
1205 北条義時が執権となる	1219 西方遠征(～1224)
1221 承久の乱	1231 高麗に侵入
1232 北条泰時、御成敗式目を制定	1241 ヨーロッパに侵入
	1253 中国・ベトナムに遠征
	1260 フビライ・ハンが即位
	1266 蒙古使者、日本に向う
1268 蒙古使者国書を渡す 北条時宗が執権となる	
1269 蒙古使者対馬に着く 蒙古使者大宰府に着く	1270 三別抄、珍島で反乱
1271 蒙古使者今津に着く	1271 国号を元と改める
1273 蒙古使者大宰府に着く	1273 三別抄を平定
1274 文永の役	
1275 蒙古使者を斬る 異国征伐(高麗侵攻)を計画	1275 マルコ・ポーロ、フビライに謁見
1276 博多湾沿岸に石築地を築く	1279 南宋滅ぶ
1281 弘安の役	
1283 蒙古襲来の風聞あり	1283 日本遠征の準備を行う
1284 北条時宗死す	1284 中国南部・ベトナム一揆起こる
1285 霜月騒動	
1286 蒙古合戦の恩賞を行う	
1293 鎮西探題を置く	1293 高麗に日本遠征の準備を命じる
	1294 フビライ死す
1333 鎌倉幕府滅ぶ	
1338 足利尊氏室町幕府を開く	
1404 石築地に関する最後の史料	1368 元滅ぶ



福岡市の文化財は <http://bunkazai.city.fukuoka.jp/>
福岡市文化財探訪ホームページ

写真①②③は「蒙古襲来絵詞」(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)から
福岡市教育委員会文化財部文化財整備課
〒810-8621 福岡市中央区天神1-8-1 TEL092-711-4783

げん こう ほう るい
史跡 元寇防塁



福岡市教育委員会

史跡元寇防塁

今から約700年以上前、元の襲来に備えて、博多湾に沿った約20kmの海岸に造られた石塁が元寇防塁です(当時は石築地と呼ばれました)。1931年(昭和6年)、西から**今津**、**今宿**、**生の松原**、**西新**、**地行**、**箱崎**の7地区が国史跡に指定され、さらに1981年今津地区が追加指定となり、保存されています。

元寇防塁が造られた理由

13世紀の初め、チンギス・ハンはアジアからヨーロッパにまたがるモンゴル帝国をうち立てました。その孫五代皇帝フビライは、国名を元と改め、日本に使者を送り通交を求めました。しかし鎌倉幕府はこれに応じず、九州の警備を固めました。

文永の役 1274年の秋、元軍は軍船900艘と兵員2万8千人で博多湾に侵入してきました。今津や百道に上陸し、祖原山に陣をかまえ、赤坂、鳥飼、箱崎などで激しい戦いを繰り広げました①。元軍の集団戦法や毒矢・鉄砲という新兵器に苦戦し、水城まで退却しましたが、元軍もその日のうちに船に引き上げました。

元寇防塁の築造 文永の役の後元は使者を派遣しましたが、幕府は鎌倉でこの使者の首をはね、対決の姿勢を示しました。1275年には高麗を攻める異国征伐を、また翌1276年には元の再度の襲来に備えて博多湾沿岸に石築地を築くように命じました。異国征伐は実行されませんでした。石

築地は九州9ヶ国が分担し、3月から半年で築き上げました。また、各国はその分担地区を警備しました②。

弘安の役 南宋を滅ぼした元は、東路軍(元・高麗)と江南軍(元・南宋)あわせて軍船4500艘、兵員14万人の大軍で、1281年再び日本遠征に向いました。先に出発した東路軍は博多湾に侵入しましたが、防塁や武士の元船への攻撃で上陸できませんでした。江南軍と合流し、再び博多湾をめざす途中、長崎県鷹島沖で暴風雨にあい、多くの軍船が沈み、退却しました③。

その後の元寇防塁 元はその後日本遠征をあきらめず、幕府は警備体制を続けました。1333年鎌倉幕府は滅びましたが、室町時代になっても警備と防塁の修理が続けられました。しかし、1368年元が滅び、元寇防塁もその後忘れ去られ、江戸時代のはじめには砂のなかに埋まってしまいました。



▲①元軍と戦う肥後の竹崎季長



▲②肥後国が分担した生の松原



▲③鷹島沖で元船を攻める武士

元寇防塁の調査

砂に埋もれていた元寇防塁が注目をあびるようになるのは大正時代です。最初は現状調査でしたが、1913年からはじめて今津で発掘が行われました。このとき中山平次郎博士が、これまで石築地と呼ばれていたものを、あらたに元寇防塁と命名しました。以後、下表のように調査が行われ、1931年には国の史跡に指定されました。また1941年には福岡県から『元寇史蹟』が刊行され、戦前までの調査の取りまとめが行われています。

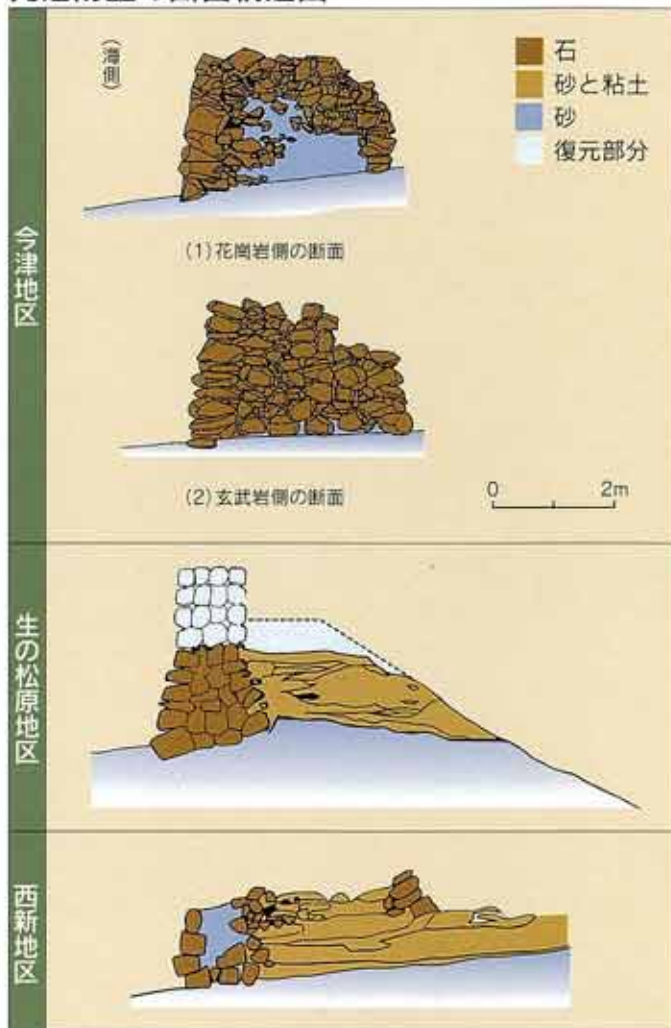
戦後の1968年から考古学・日本史学・土木学・地質学など関連諸科学が協力し、元寇防塁の総合的な調査が行われました。生の松原、今津、西新の3地区を発掘調査し、調査後、発掘地区は保存処理を施し、露出展示されています。

元寇防塁発掘調査史

1913(大正2)	今津の防塁を発掘
1920(大正9)	西新の防塁を西新小学校生徒が発掘 箱崎(地藏松原)で防塁発掘
1921(大正10)	香椎(浜男)で石塁発掘 姪浜(阿隈)で防塁発掘
1924(大正13)	西新で道路建設による防塁発掘
1957(昭和32)	今津(大原)で道路建設で防塁を確認
1968(昭和43)	生の松原地区元寇防塁発掘調査* 今津地区元寇防塁発掘調査*
1970(昭和45)	西新地区元寇防塁発掘調査*
1979(昭和54)	姪浜(脇)地区元寇防塁の確認調査*
1998(平成10)	生の松原地区元寇防塁発掘調査*
1999(平成11)	博多(奈良屋町)で石塁発掘調査*

*福岡市教育委員会調査

元寇防塁の断面構造図



元寇防塁はどのように造られたか

鎌倉幕府が命じた石築地役は、所領一段(反)につき一寸の長さを築くというものです。九州の各国はそれぞれの分担地区におもむき、1276年の3月から約半年で防塁を築き、その後は分担地区の警備をつとめました。

防塁の石材は分担地区の近くの山や海岸などから運んだようですが、発掘調査の結果、防塁はそれぞれの築造場所によってその構造が違ってくるようになってきました。

今津地区は、約3mの高さまで石を台形に積み上げていますが、全体を石で造るものと中に砂を入れるものの二通りの造り方があります。石材は西側が花崗岩、東側が玄武岩、中央は二つの石材が交互に用いられています④。ことよく似た構造が博多の石塁⑦にも見られますが、使

元寇防塁の担当

今津	3km	大隅(鹿児島)・日向(宮崎)
今宿	2.2km	豊前(福岡・大分)
生の松原	1.7km	肥後(熊本)
姪浜	2km	肥前(長崎・佐賀)
西新(百道)	2.3km	不明
博多	3km	筑前・筑後(福岡)
箱崎	3km	薩摩(鹿児島)
香椎	2km	豊後(大分)

われている石材は一回り大きいものでした。姪浜地区の脇も全体を石だけで築いていました。

生の松原地区は、前面(海側)に石を積み上げ、後ろは土と砂を突き固めています。石積みは高さ約2.5m前後、頂部の後ろは一段下り通路状となり、後方はさらに南側に傾斜しているようです。前面の石材は中央部付近から西側がベグマタイト(巨晶花崗岩)、東側が砂岩と使い分けています⑤。姪浜地区の向浜、箱崎(地藏松原)の防塁の構造



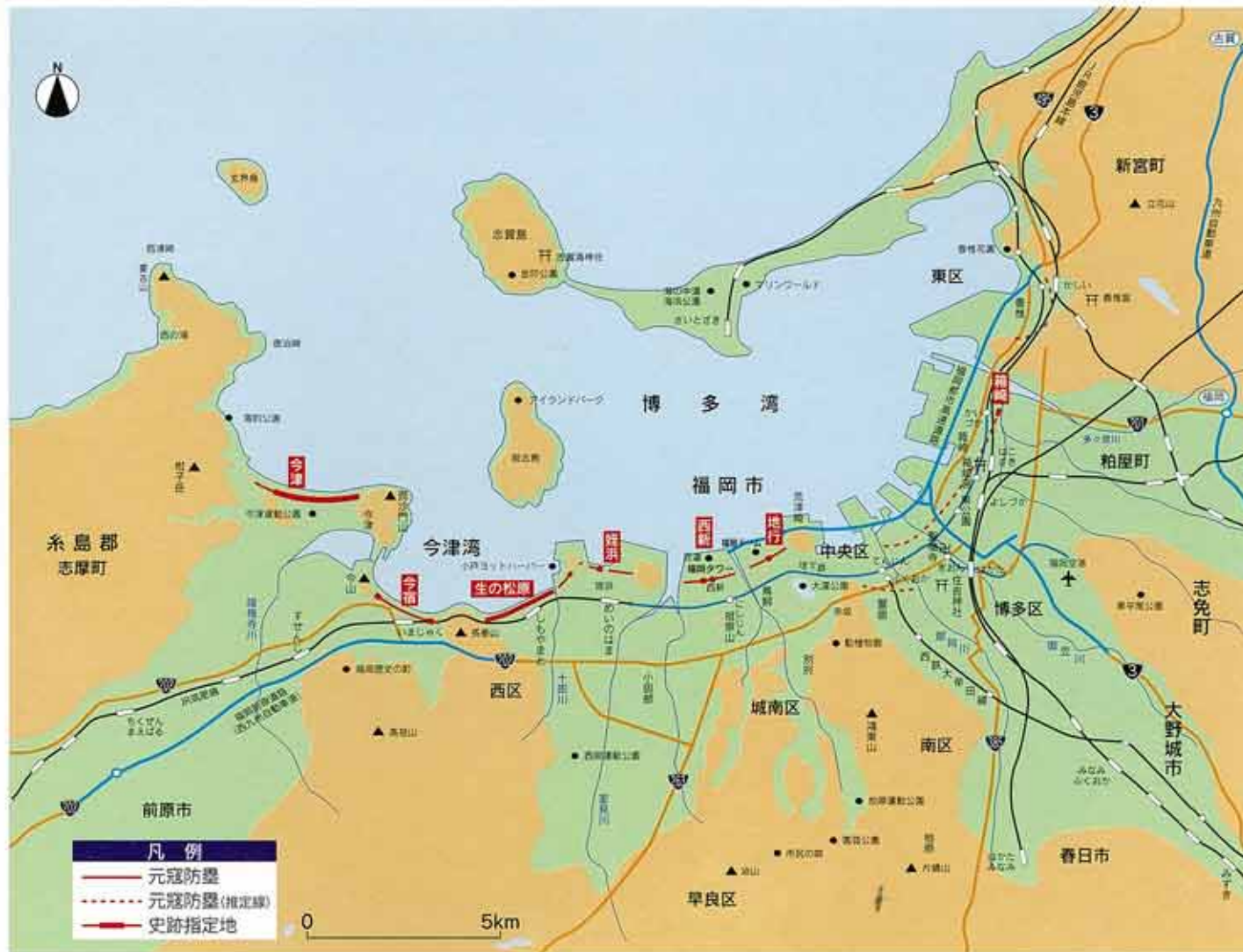
▲④今津地区の元寇防塁



▲⑤生の松原地区の元寇防塁



▲⑥西新地区の元寇防塁



もこれに似ているようです。

西新地区では粘土による基礎工事を行い、基底部幅3.5mの前面と後面に石積みをし、その間を砂と粘土でつめています。石材の節約をはかった独特の工法となっています⑥。

このように防塁の構造は異なりましたが、海から見える部分はすべて石積みで、それが山々の間の海岸部に20kmにわたって築かれていました。

元寇史跡めぐり

- 1. 蒙古山** ———— 昭和バス「西の浦」
糸島半島の北東端に位置する標高158.5mの山。ムクリ岳。1895年、山頂に「蒙古山之碑」が建立された。
- 2. 今津** ———— 昭和バス「今津」
古代から中世の対外貿易港。1271年、蒙古の使者、趙良弼一行百人がこの地に着いている。今津の元寇防塁は海岸の松原の中に約3kmにわたり続き、一部を公開。蒙

古塚(野の花学園とその東側にある万人塚、千人塚の2基の塚)、「蒙古殲滅之處」碑(東京大学の伊東忠太博士の設計で1916年建立)⑧、勝福寺(臨済宗大徳寺派。大覚禅師[蘭溪道隆]が、鎌倉幕府五代執権北条時頼の助力をえて1249年創建)、誓願寺(真言宗仁和寺派。怡土莊の中原氏娘の発願で、1175年栄西を招き創建)があり、東には毘沙門山がそびえる。

- 3. 今宿** ———— JR筑肥線「今宿」
長垂海水浴場の松原の中に元寇防塁が残る⑨。
- 4. 生の松原** ———— JR筑肥線「下山門」
「蒙古襲来絵詞」に描かれた元寇防塁が松原の中に続く。東側の一部を復元し、公開。
- 5. 姪浜** ———— 地下鉄「姪浜」
小戸公園(向浜)と姪浜北団地の北側(脇)⑩に元寇防塁が残る。興徳寺(臨済宗大徳寺派。鎮西探題北条時貞の開創と伝える)の南浦紹明(大応国師)は元の使者趙良弼と詩を交す。西には鷲尾山(愛宕山)がある。
- 6. 西新(百道)** ———— 地下鉄「西新」
文永の役の際ここから元軍が侵入。そのため元寇防塁は強固なものであったと考えられ、その構造は他地区とは異なるが担当国は不明。現在西南大学南側(西新)を公開するとともに、その西側(百道)にも残る。祖原山は百道の南にある標高33mの山で、文永の役の時蒙